

しまくとぅば普及関係者各位

沖縄語教育研究 4

沖縄語を日本語と比べて言語素養を高めよう (4枚)

2009年8月25日

沖縄語研究者 船津好明

沖縄語の学習者は、沖縄語と日本語を対等に比べ、双方の特徴を知ることによって知識が補完し合い、言語素養が一層高まります。沖縄語を日本語と比べるのは、既存知識の活用のためで、日本語に追随するものではありません。

沖縄の一識者も過去を回顧して「昔も日本語の教育と共に沖縄語も尊重して、沖縄語の特徴を教えればよかった」旨述べています。(「沖縄文化研究 34号」393頁、法政大学沖縄文化研究所、2008年3月)

昔使われた日本語のための指導書では、沖縄語風の日本語を誤りとして戒めています。例えば「標準語対照沖縄語の研究」(桑江良行、崎間書店、昭和29年)はその一つで、今読むと沖縄語教育に活かせる素材がたくさんあります。語句の一部を抜粋して、筆者(船津)が以下に解説してみました。

沖縄語教育では、以下のような語句だけをまとめて説明すると、いわゆる沖縄語学になってしまいます。そういう教え方ではなく、生きた沖縄語を教える中で以下のような語句が出てきた際に、補足説明するという仕方が望ましいと思います。

1、ちゅーん (来ゅーん)

日本語に訳すと「・・・に向かって動く」となります。場合によって「来る」にも「行く」にもなります。英語の come に似ています。

「我んね^{なま}今、名護んかい^{をう}居ん。くりから^{な-ふぁ}那覇んかい^ち来ゅーん。」

これと同じ意味の日本語は、

「私は今、名護にいる。これから那覇に向かう。」

となります。

この場合「来ゅーん」を日本語で「来る」と置いて、

「私は今、名護にいる。これから那覇に来る。」という変な日本語に聞こえます。

この場合「行く」に置き換えると、

「私は今、名護にいる。これから那覇に行く。」

となります。

沖縄語の「ちゅーん」と日本語の「来る」では、「ちゅーん」の方が意味が広いのが特徴です。

沖縄語は独立言語ですから、日本語を気にせず、行くも来るも「ちゅーん」(・・・に向かって動く)を使うと、沖縄語の特徴を活かすことになります。

2、かさかんじゅん (傘被じゅん)

日本語に訳すと「傘を差す」となります。傘を開いて柄を持って頭上に掲げることです。雨や日光をよけるときの行為です。沖縄語は独立言語ですから、「かさかんじゅん」は沖縄語の中では自然な表現です。日本語の方が奇妙にさえ聞こえます。

日本語で「傘を被る」というと変に聞こえます。敢えて弁解すれば、傘を開いて柄を持って頭上に掲げるのではなく、傘布を大きな帽子のように頭に乗せることです。こういう場面は、演劇は別として、日常生活にはありません。

沖縄語で「かささすん」というと変に聞こえます。敢えて弁解すれば、傘を開いて柄を持って頭上に掲げるのではなく、すぼめた傘を、刀を差すように腰に帯びることです。こういう場面は、演劇は別として、日常生活にはありません。整理すると、

かさかん
傘被じゅん (沖縄語) 傘を差す (日本語)

×かささ
×傘差すん (沖縄語) ×傘を被る (日本語)

3、ゆーぬくりゅん (夜ぬ暮りゅん)

日本語に訳すと「日が暮れる」となります。日本語では日が(終わって)暗くなっていくことを意味します。沖縄語の「ゆーぬくりゅん」は夜が(始まって)暗くなっていくことを意味します。沖縄語の「ふいぬくりゅん」も、日本語の「夜が暮れる」も、変な言い方です。このほか沖縄語には「ゆーゆっくいゅん」という言い方があります。

4、なちかさん (嘆かさん)

日本語では大方「悲しい、嘆かわしい」の意味になると思います。「懐かしい」の意味で

「なちかさん」という人もいますが、少数のようです。「懐かしい」の意味の沖縄語には「あながちさん」があります。

5、くるすん（^{くる}懲るすん）（^{くる}殺すん）

日本語に訳すと「殴る・打つ・懲らす。殺す。」となります。同じ発音の「くるすん」という言葉が二つあると考えてもよいでしょう。意味は前後の言葉の流れで分別します。分別できないときは、一つの意味に断定せず、全ての意味を留保する必要があります。

日本語にも同じ発音で意味が異なる言葉や言い回しが幾つもあります。例えば「しかいがよい」と口で言っただけでは、「視界がよい」、「司会がよい」の区別はつきません。この場合は意味を取り違えても大事に至らないでしょうが、「殴る」と「殺す」を取り違えると、大変なことになります。

「くるすん」の意味を取り違えないためには、書くときに漢字を使うとよいでしょう。他人の声を聞いて字で書くときは、よく分別して適切な漢字を使うとよいでしょう。分別できないときは、仮名で書くのが無難です。

6、あっちゅん（^{あっ}歩ちゅん）

日本語に訳すと「移動する、状態がよく進んでいる、してばかりいる」など、かなり幅広です。足で歩くのも、車で行くのも、元気であるのも「あっちゅん」に当たります。

「あめ^{みちあっ}道歩ちゅん」を日本語に訳すと「あの道を通る」となります。足で歩いて、車で走っても該当します。

日本語の「歩く」も歩行に限りません。「食べ歩く」は歩行しながら食べるのではなく、あちこちの飲食店に寄って食事をすることです。

沖縄語の挨拶言葉「あっちゅみ」は、(君の)状態がよく進んでいるか、という感じの「調子はどう？」に当たります。

日本語の「歩く」は、沖縄語の「あっちゅん」より意味の幅が狭いようです。

7、なだうとうすん（^{なだう}涙落とうすん）

日本語に訳すと「涙を流す」となります。同じ現象なのに沖縄語と日本語で言い方が違う感じがするのはなぜか、という疑問は当たりません。言葉は習慣だからです。沖縄語で

の「^{なだなが}涙流すん」や日本語での「涙を落とす」が変に聞こえるのも、習慣による感覚です。

沖縄語も日本語も独立言語です。沖縄語は沖縄語で、日本語は日本語で考えれば明解です。

8、にゆん（^に煮ゆん）

日本語の「煮る」と響きが似ていますが、意味の幅がだいぶ違います。「にゆん」を日本語に訳すと「煮る、炊く、ふかす、むす」など幅広い意味合いになります。日本語の「ご飯を炊く」は、沖縄語では「^{うぶんに}御飯煮ゆん」、^に諸を蒸気でむすのも鍋で煮るのも「煮ゆん」で通ります。

9、から

「から」は助詞です。日本語に訳すと、場所、時間、状態の変化の初めを表す「から」の他に、動く場所や手段そのものにかかる「を、で」となります。特には日本語にはなく、沖縄語の特徴といえます。

「^{うみ}海^{すく}ぬ^{いゆ}底^{うい}から^{じゅん}魚^{うい}ぬ^{うい}泳^{じゅん}」を日本語に訳すと「海の底を魚が泳ぐ」となり、「から」は魚が泳ぐ場所を指します。

「^{ふに}船^{から}ちゅーん」は日本語の「船で向かう」に当たるとは思いますが、「から」の意味のとり方で「船から来る」に当たるかも知れません。要は前後の言葉も考慮して真の意味を見出すことです。

上に挙げたような言葉は他にもたくさんあります。名詞として「やま、かー、むい、にし」なども、意味や日本語との関係を理解しておきたいものです。

照会先

〒1870002 東京都小平市花小金井 2-6-1

船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp